

極秘

昭和十年六月二十九日

委員長 荒井顧問官

委員 河合顧問官

石井顧問官

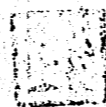
原 顧問官

石塚顧問官

石渡顧問官

林 顧問官

日滿經濟共同委員會設置ニ關スル協定
締結ノ件審査報告



日滿經濟共同委員會設置ニ關スル協定締結ノ件審査報告

經一

極 秘

今回御諮詢ノ日滿經濟共同委員會設置ニ關スル協定締結ノ件ニ付本官等審査委員ヲ命ゼラレ本月二十七日委員會ヲ開キ國務大臣及關係諸官ノ辯明ヲ聽取シ以テ之ガ查覈ヲ遂ゲタリ抑々帝國ノ滿洲國ニ對スル國策ノ基調トスル所ハ曩ニ昭和八年三月換發ノ國際聯盟脫退ニ關スル詔書及昭和七年九月調印ノ日滿議定書ヲ以テ宣明セラレタルガ如ク滿洲國ノ獨立ヲ確

認尊重シ且之ヲシテ帝國ト不可分依存ノ關係
 ヲ持シテ進歩發達セシムルニ在リ帝國政府ハ
 常ニ此ノ方針ニ則リテ適切ナル處置ヲ講ズル
 コトヲ念トシ日滿兩國ノ連繫ヲ確保スル爲メ
 日滿議定書ニ於ケル兩國共同シテ國家ノ防衛
 ニ當ルベキ旨ノ條規ニ基キ軍事ニ關シテハ同
 議定書ニ依リ共同防衛ニ必要ナル日本國軍ノ
 滿洲國內永久駐屯ノ權ヲ確立シタル外別ニ兩
 國間ニ軍事上ノ協定ヲ締結シ又外交ニ關シテ
 ハ客年三月滿洲國帝制實施ノ際兩國間ニ交換

維二

セル公文ニ依リ滿洲國ハ其ノ外交其ノ他共同
 防衛上必要ナル事項ニ付必ズ豫メ日本國ニ充
 分且隔意ナキ協議ヲ遂グベキコトヲ協定シタ
 リ然ルニ均シク兩國ノ連繫ニ緊密重要ノ關係
 アル經濟ニ關シテハ其ノ共同措辦ノ方法ニ付
 未ダ何等制度トシテ確立セルモノナク爲メニ
 滿洲國ノ經濟問題ニシテ帝國ノ經濟ニ重大ノ
 關係アル事項ノ處理殊ニ滿洲ニ於ケル重要産
 業ヲ目的トスル日滿合辦會社ノ監督ニ關シテ
 正式ニハ帝國政府ハ發言權ヲ有セズ之ヲ滿

洲國政府ノ措置ニ一任スルノ外ナキ現状ニ在
リ斯クノ如キハ日滿兩國ノ不可分關係ヲ確保
スル所以ニ非ズ又兩國經濟上ノ依存關係ヲ鞏
固ナラシムル所以ニ非ザルコト明ニシテ兩國
ノ連繫ニ關係アル限リ軍事及外交ニ關スルト
同ジク經濟ニ關シテモ亦共同措辦ノ方法ヲ制
度ノ上ニ確定シ以テ正式ニ帝國ノ發言權ヲ存
立セシムルノ必要アリ帝國政府ハ此ノ必要ニ
應ズル爲メ日滿兩國間ニ一ノ共同機關ヲ設置
スル旨ノ協定ヲ締結スルヲ可ナリトシ在滿帝

國使臣ヲシテ滿洲國政府ト交渉セシメタルニ
協議調ヒテ本件取極ノ成案ヲ得ルニ至レリ
本案ノ取極ハ「日滿經濟共同委員會設置ニ關ス
ル協定」ヲ主タルモノトシ之ニ添フルニ「附屬書
及「日滿經濟共同委員會設置ニ關スル協定」ノ締
結ニ付日本國及滿洲國全權委員ガ一致シタル
了解事項」ナル文書ヲ以テス今逐次此等各部ノ
要旨ヲ摘録スレバ左ノ如シ

第一 協定

(一) 滿洲國新京ニ日滿經濟共同委員會ヲ常設

ス(條二)

(二)本委員會ハ日滿兩國經濟ノ連繫ニ關スル重要事項及日滿合辦特殊會社ノ業務ノ監督ニ關スル重要事項ニ付日滿兩國政府ノ諮問ニ應ジ意見ヲ答申スベキモノトシ(條三)
兩國政府ハ此等ノ事項ニ付テハ本委員會ノ諮問ヲ經タル後ニ非ザレバ之ヲ處理スルコトヲ得ザルモノトス(條三)

(三)本委員會ハ必要ニ應ジ日滿兩國經濟ノ合理的融合ニ關スル一切ノ事項ニ付兩國政

府ニ建議スルコトヲ得ルモノトス(條四)

(四)本委員會ノ組織及運用ニ付テハ附屬書ノ定ムル所ニ依ル(條五)

(五)本協定ハ署名ノ日ヨリ之ヲ實施シ日滿兩國ヲ以テ共ニ正文トシ其ノ間ニ解釋ヲ異ニスルトキハ日本文ニ依リ之ヲ決スルモノトス(條六)

第二 附屬書

附屬書ハ前記ノ委員會ノ組織及運用ノ大綱ヲ定メタルモノニシテ(一)本委員會ノ委員ハ

八名トシ兩國政府ニ於テ各其ノ半数ヲ任命
シ相互ニ之ヲ通報スベク委員事故アルトキ
ハ滿洲國駐劄日本帝國特命全權大使ト滿洲
國國務總理大臣トノ協議ニ依リ其ノ代理者
ヲ定メ又兩國政府ハ必要ニ應ジ協議ノ上各
同數ノ臨時委員ヲ任命スルコトヲ得ルモノ
トシ(聯二)(三)議長ハ委員中ヨリ之ヲ互選シ(第
項)(三)本委員會ノ庶務ヲ整理セシムル爲メ幹
事若干名ヲ置キ兩國政府各其ノ同數ヲ隨員
中ヨリ任命スルモノトシ(聯三)(四)本委員會ノ

議事ハ過半数ヲ以テ之ヲ決シ議長ハ委員ト
シテ議決ニ加ハルノ外ニ可否同數ナルトキ
之ヲ決スルノ權ヲ有スルモノトシ(聯四)(五)委
員會ノ議事規則ハ兩國政府ノ承認ヲ經テ委
員會之ヲ定ムルモノトスル(聯五)ノ諸項ヲ揭
ゲタリ

第三 了解事項

此ノ文書ハ前記ノ委員會ノ組織及權限ニ關
シ更ニ具體的ノ取極ヲ爲シタルモノニシテ
(一)本委員會ノ常任委員ハ帝國側ハ關東軍參

謀長、在滿大使館專任首席參事官、關東局總長及政府ニ於テ特ニ任命スル者一名トシ滿洲國側ハ外交部、實業部及財政部ノ各大臣並ニ國務院總務廳長トシ(辨二)(三)本委員會ノ諮問事項中日滿兩國經濟ノ連繫ニ關スル重要事項トハ滿洲國政府ノ權限ニ屬スル經濟問題ニシテ兩國經濟ノ連繫ニ關係アル輸出入及關稅ニ關スル事項並ニ重要産業ノ開發及統制、日滿合辦特殊會社ノ設立ニ關スル法令ノ制定及改正、投資其ノ他兩國經濟ノ連繫ニ關

スル重要事項ヲ謂フモノトシ(辨二)(三)同諮問事項中日滿合辦特殊會社ノ業務ノ監督ニ關スル重要事項トハ日滿兩國經濟ノ連繫ニ關係アル重要産業ヲ目的トシ兩國ノ一方ノ法律ニ依リ成立シ其ノ資本金ノ半額以上ガ他方ノ國ノ政府、臣民又ハ法人ノ釀出ニ係ル會社ノ定款ノ重要ナル變更、利益金處分又ハ合併及解散ノ決議ノ認可ニ關スル事項ヲ謂フモノトスル(辨三)旨ヲ掲ゲタリ本文書ニハ滿洲國ヲ拘束スル片務的條項アルガ故ニ兩國

ノ協議ニ依リ之ヲ秘密ニ付スルコトトセル
旨當局ハ言明シタリ

按ズルニ本件ノ取極ハ曩ニ締結セラレタル日
滿議定書ノ趣旨ニ基キ日滿兩國ノ經濟上ノ依
存關係ヲ永遠ニ鞏固ナラシムル目的ヲ以テ兩
國間ノ重要ナル經濟問題ニ關シ充分且緊密ニ
共同ノ實ヲ擧ゲテ兩國經濟ノ合理的融合ヲ實
現スル爲メ日滿經濟共同委員會ナル兩國政府
ノ諮問機關ヲ常設シ以テ兩國ノ經濟ニ關聯ス
ル一定ノ重要事項ヲ處理スルニ當リ豫メ該委

員會ニ諮問シ其ノ意見ヲ俟テ之ヲ措辦セム
トスルモノニシテ斯クノ如キ機關ヲ設置スル
ハ日滿兩國ノ特殊關係ニ考ヘ帝國ノ對滿國策
ヲ遂行スルニ裨補スル所アルベキガ故ニ本件
取極ハ其ノ大體ノ趣旨ニ於テ之ヲ可トスベク
其ノ各部ノ條項モ亦特ニ非議スベキ廉ヲ認メ
ズ唯斯カル特殊ノ施設ハ其ノ運用宜キヲ得ル
ニ非ザレバ所期ノ效果ヲ齎スコト能ハザルハ
言ヲ俟タザル所ナルガ故ニ本件取極ノ實施ニ
膺リ當局ニ於テ最善ノ注意ヲ拂ヒ苟モ其ノ措

置ラ謬ルコトナク以テ能ク充分ノ成績ヲ收ム
ルニ至ラムコトヲ切望セザルヲ得ズ仍テ審査
委員會ニ於テハ本件ハ此ノ儘之ヲ可決セラレ
然ルベキ旨右ノ希望ト俱ニ全會一致ヲ以テ議
決シタリ

右審査ノ結果ヲ報告ス

昭和十年六月二十九日

審査委員長

樞密顧問官

荒井賢太郎

審査委員

樞密顧問官

河合 操

樞密顧問官子爵石井菊次郎

樞密顧問官 原 嘉道

樞密顧問官 石塚 英藏

樞密顧問官 石渡 敏一

樞密顧問官男爵林 權助

樞密院議長男爵一木喜徳郎殿